

令和 7 年度

「運営に関する計画」

最終反省

大阪市立西淀中学校

令和 8 年 2 月

大阪市立 西淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和6年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」について、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は83.2%であった。
- ・令和6年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は53.4%であった。
- ・令和6年度の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は、59.2%であった。
- ・令和6年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71.8%であった。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」について、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を毎年、前年度より減少させる。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率4割以下の生徒を令和4年度より3ポイント減少させる。
- ・令和7年度の校内調査における「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」について、最も肯定的に答える生徒の割合を35%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている」について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を40%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1、2を満たす教員の割合をそれぞれ30%以上、50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「学校のきまり（規則）を守っていますか」について、肯定的に回答する生徒の割合を 96.5%以上にする。
- ・年度末の校内調査（保護者）における「学校は安全面の充実を図っている」について、肯定的な回答の割合を 86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 55%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」について、肯定的な回答の割合を 40%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 72%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1、2 を満たす教員を昨年度の同時期と比較し、その割合を増やす。

【その他】

- ・年度末の校内調査（保護者）「子どもは『学校が楽しい』と言っている」と（生徒）「学校生活は楽しいですか」について、それぞれ肯定的な回答の割合を 88%以上にする。
- ・年度末の校内調査（保護者）における「子どもは、地域や学校であいさつをしている」について、最も肯定的な回答の割合を 43%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

教育相談やアンケート調査、登校時・休憩時間の見守り活動等を含む教育活動全体を通して、生徒にしっかりと寄り添い、生徒の様々な課題に対して全教職員で情報共有に努め、早期発見、早期対応できるように取り組んできた。目標に達していない項目については、取組の改善を進め対応していく。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

授業規律がある程度整っている状況で、生徒の学力面・体力面において成果が出るよう努めている。今後も授業規律を確保しつつ「主体的・対話的で深い学び」を進め、より一層の授業改善を行っていく。引き続き授業改善と充実に取り組み、習熟度別学習やチームティーチングの工夫、ICTの活用をさらに進める。また、授業や学級活動などにおける生徒間での話し合う活動を通じて、生徒自身が考えを深めたり、広げたりできるようにする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するため、ICTを効果的に活用できるよう教育環境の充実を進めてきた。引き続き学習者用端末の積極的な活用を推進する。教員の働き方改革については、長時間勤務の解消を通じて、教員が生徒の前で健康で生き生きと働くことができ、生徒一人ひとりに向き合う時間を確保することができる環境の実現に向けてさらなる取組が必要である。

【その他（西淀中学校独自の目標）】

あらゆる教育の機会を通して生徒同士が互いを認め合い、一人ひとりの自己有用感を高められるよう取組を行った。今後も引き続き、行事等で班活動を取り入れ、互いに認め合い、高めあう集団育成を進めていく。

(様式2)

大阪市内 西淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 ・年度末の校内調査における「学校のきまり(規則)を守っていますか」について、肯定的に回答する生徒の割合を96.5%以上にする。 ・年度末の校内調査(保護者)における「学校は安全面の充実を図っている」について、肯定的な回答の割合を86%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 いじめの早期発見・早期解決に向けて、生徒の悩みを把握し、心のケアに努める。 指標 いじめアンケート(月1回)個別の教育相談(年2回)を実施する。	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 全教員による生活指導体制を整え、問題行動に対して毅然とした対応を行う。 指標 生活指導研修会を年1回以上実施し共通認識を図る。また、年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」について、最も肯定的に回答する生徒の割合を72%以上にする。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 人権教育を計画的に実施し、人権意識の向上に努めるとともに、いじめを絶対にしない・許さない雰囲気づくりや互いの違いや良さを認め高めあう学級・学年集団づくりに取り組む。学級・学年における人権教育・道徳教育の実践に加え、委員会活動や部活動を通して自己有用感や自尊感情の育成を行う。 指標 校内調査における「命や人権の大切さについて考える学習がある」について、最も肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。	B
取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 生徒が安全で安心できる学習環境を整える。 指標 校内調査(保護者)における「学校は安全面の充実を図っている。」について、肯定的な回答の割合を80%以上とする。	B
取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 全教職員で不登校生徒の状況把握に努め、安心して学校生活を送れる環境を整える	B

とともに、関係諸機関と連携しながら不登校の改善を図る。保護者との連携を密にし、家庭訪問等が系統的に行えるよう記録簿を活用する。		
指標 行政機関や関係諸機関と連携し、新規不登校生を前年度と比較して減少させる。		
取組内容⑥【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 避難訓練などを通して、火災や地震などの災害時に安全かつ迅速に、生徒が自らの命を守る行動がとれる力を育成する。		B
指標 校内調査（生徒）における「学校は火災や地震が起こった時の対処方法を教えてください。」について、最も肯定的な回答の割合を 65%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（中間反省）		
① いじめアンケートを実施し、生徒間のトラブルなどに迅速に対応し、家庭とも連携することで問題解決に努めることができた。		
② 生活指導のルールについて教職員間で共通理解を図り、目標を達成することができた。		
③ 学年間で道徳科の授業進度を共有して進め、目標を達成することができた。		
④ 避難訓練等の取組を計画通りに行うことができ、目標に達した。		
⑤ 生活指導部会などで情報を共有し、学年間・学校間で共有することができた。		
⑥ 避難訓練や消防体験を通して災害への対処のしかたを指導し、夏の調査では、目標を下回ったが、冬の調査では目標を大きく上回った		
今後の改善点（中間反省）		
① 今後もいじめアンケートを月 1 回実施し、生徒の実態把握に努めたい。		
② 教職員全体が同じ基準で生活指導に臨むことができるようにし、毅然とした対応ができるようにする。		
③ 今後も資料の共有していき、授業改善に努める。		
④ 今後も引き続き安全面での充実に努め、取組内容を学校ホームページや PTA 実行委員会などで情報発信する。		
⑤ 全教職員で不登校生徒の状況把握に努め、安心して学校生活を送れる環境を整える。		
⑥ 非常時に冷静に行動して避難等ができるよう指導していきたい。		

大阪市立 西淀中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 55%以上にする。 ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ・年度末の校内調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」について、肯定的な回答の割合を 40%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びの深化・充実に向け、各教科で効果的な指導方法を研究し、実践する。	国 B 社 B 数 B 理 B 英 B 音 B 美 B 技家 B 保体 B
指標 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 55%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 放課後学習会を開催し、授業の復習や課題などに取り組ませることで、自主学習習慣を定着させる。	B
指標 年度末の校内調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」について、肯定的な回答の割合を 40%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 体育の授業や部活動での準備運動において、柔軟性と筋力を高めるトレーニングを取り入れ、継続的に取り組む。	B
指標 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 60%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（中間反省）	
①	（国）基礎学力の向上に重点を置きながら、単元によって Google Classroom や Canva を活用して意見や作品の共有も行うことができた。グループ活動を取り入れ意見の共有ができるようにした。
①	（社）基礎学力の定着に力を入れると同時に、思考力を高められる活動を授業に取り入れ、振り返りシートなどを通して深い学びにつなげることができた。
①	（数）Google forms などを用いて授業を行ったり、Google Classroom 内に授業中の板書をのせていつでも確認できるようにしたり、一人一台端末を活用して学びにつなげることができた。
①	（理）Google スプレッドシート等を用いて観察や実験の結果や考察を班や個人でまとめさせ、共有できるよう取り組んだ。
①	（英）定期的に小テストを実施し、課題の克服に取り組む。C-NET や分割授業、デジタル教科書などを活用してきめ細かな学力支援を行った。
①	（音）Google スプレッドシートを活用し、班ごとに意見を入力することで、話し合いを通じた意見交流と、学級単位での幅広い共有を図った。
①	（美）鑑賞の授業において、班で意見を共有する機会をつくり、多様な価値観や考えを深めるように取り組んだ。
①	（技家）年度目標に向けた取り組みはおおむね順調にできた。
①	（保体）基礎体力を向上させるため、毎時体力を高める運動を取り入れた。
②	放課後学習会をほぼ毎日（1 月末までに 151 回）実施し、自主学習習慣を定着できるよう取り組んだ。また、PTA と連携して英語検定・漢字検定を実施し、検定を通して学習に向かわすようにした。
③	球技などにおいてグループ学習を取り入れ、生徒同士が協力して問題を解決できるような授業に取り組んだ。
今後の改善点（中間反省）	
①	（国）今後も基礎学力の向上に重点を置きつつ、単元ごとにグループ活動や Google Classroom を活用したさまざまな学習活動を取り入れていく。
①	（社）基礎的基本的な知識の習得と思考力を養い、確かな学力を創造したい。
①	（数）個人で考えた意見を他者参照したり、話し合いを行い、自分の考えをより深められるようにしたい。
①	（理）Google スプレッドシートの入力後、振り返りや発表を行い、自分の考えを深める取り組みを行う。

- ① （英）デジタル教科書や C-NET との授業で、ペア学習やグループ学習の機会を増やす。スピーキングテストを実施するなど英語で自分の考えを相手に伝える力を伸ばす。
- ① （音）Google スプレッドシートでの共有により学級全体での意見交流は促されたが、話し合いの深まりや共有はもう一歩であったため、交流しやすい題材設定を工夫する。
- ① （美）表現の授業においても同様に、生徒間で話し合い、意見を共有し、よりよい作品制作につながるようにする。
- ① （技家）基本的な知識・技能の定着に努め生徒が主体的に取り組めるように指導していきたい。今後も基礎基本の定着を重視して実習など取り組んでいきたい。
- ① （保体）基礎体力を向上させるため、毎時体力を高める運動を取り入れ、生徒が意欲的に体力向上に努められる授業づくりに取り組んでいく。
- ② 放課後学習会や英語検定・漢字検定などの学習機会をつくり、家庭学習習慣の定着につながる取組を行う。
- ③ 運動が苦手な生徒も楽しめるような環境づくりや、生徒が主体的に取り組めるよう指導していく。

大阪市立 西淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く） ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1、2を満たす教員を昨年度の同時期と比較し、その割合を増やす。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育D Xの推進】 ICT 環境を整え、学習者用端末の利活用を推進する。	B
指標 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の72%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方の見直しを図り、教職員の職場環境の改善を行う。	B
指標 「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1、2を満たす教員を昨年度の同時期と比較し、その割合を増やす。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（中間反省）	
① 12 月時点における、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日の割合は、79.5%で目標を上回った。昨年度に引き続き、文部科学省リーディング DX スクール事業の指定校として取り組んでおり、教職員・生徒ともに利用率が上がった。	
② 「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準を満たす教員の割合は、基準1、2ともに昨年度の同時期とほぼ同じであった。	
今後の改善点（中間反省）	
① ICT 委員会を中心に、引き続き学習者用端末の利用率の向上を図る。	
② 次年度も引き続き、働き方の見直しを進め、教職員の職場環境を改善する。	

大阪市立西淀中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他（西淀中学校独自の目標）】 ・年度末の校内調査（保護者）「子どもは『学校が楽しい』と言っている」と（生徒）「学校生活は楽しいですか」について、それぞれ肯定的な回答の割合を88%以上にする。 ・年度末の校内調査（保護者）における「子どもは、地域や学校であいさつをしている」について、最も肯定的な回答の割合を43%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】 あらゆる教育の機会を通して生徒同士が互いを認め合い、一人ひとりの自己有用感を高められるよう取り組む。	B
指標 年度末の校内調査（保護者）「子どもは『学校が楽しい』と言っている」と（生徒）「学校生活は楽しいですか」について、それぞれ肯定的な回答の割合を88%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】 全教員で計画的・系統的に人権教育・道徳教育に取り組み、規範意識の向上や思いやりの心を育む。	B
指標 年度末の校内調査（保護者）における「子どもは、地域や学校であいさつをしている」について、最も肯定的な回答の割合を43%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（中間反省）	
① （1年）1年生は体育大会や校外学習などの行事で班活動などを積極的に取り入れ、互いに認め合う集団育成を実践してきた。その結果として、生徒の「学校生活は楽しいですか」の肯定的な回答割合は夏86.7%、冬85.4%となり、目標よりも少し下回っている。また、保護者の「子どもは、『学校生活は楽しい』と言っている」の項目における肯定的回答は83.3%となっており、これは大きく下回ってしまっている。	
① （2年）スポーツ大会、体育大会、平和学習などの行事で積極的に班活動を取り入れ、互いに認め合う集団育成を実践してきた。その結果として、学校教育アンケートの生徒	

による「学校生活は楽しいですか」の項目で肯定的な回答が夏 89.5%、冬 93%となっており、目標とする 88%より上回った。また保護者の「子どもは、『学校生活は楽しい』と言っている」の項目における肯定的回答も 90.9%で、目標を上回った。

- ① （３年）体育大会や、修学旅行などの行事で積極的に班活動を取り入れ、互いに認め合う集団育成を実践してきた。その結果として、学校教育アンケートの生徒による「学校生活は楽しいですか」の項目で肯定的な回答が 88.1%となっており、目標とする 88%より、0.1%上回った。しかし、保護者の「子どもは、『学校生活は楽しい』と言っている」の項目における肯定的回答は 85.7%となっており、これは若干下回ってしまった。
- ② 道徳の時間に教科書(読み物教材)を活用して道徳心を培った。単元が重ならないように工夫し、いろいろな視点から考えられようにした。また、日々の学級活動においても規範意識を高めるように取り組んだ。

今後の改善点（中間反省）

- ① （１年）生徒、保護者共に「学校生活が楽しいですか」の肯定的な意見が目標の 88.0%よりも低くなっている。他のアンケート結果を見てみると、行事などは満足しているが、授業を意欲的に受けている生徒の割合が他学年に比べて低くなっている。意欲的に授業が受けられるような授業改善をしていくと共に、学校に行くことの楽しさを伝えていきたい。
- ① （２年）今後も日々の学校生活や行事を通して、集団づくりや、班活動を行い、生徒が主体的に活動し、意欲的に取り組む活動を増やしていく。
- ① （３年）生徒の解答に反して、保護者アンケートの肯定的意見が低くなってしまっている。これは、保護者アンケートの「子どもは、学校のことをよく話す」という項目の肯定的意見が、66.1%と学校全体としてみても圧倒的に低くなっている。今後は、直接保護者に向けて積極的に発信していきたい。
- ② 学年ごとに工夫して、道徳の指導に取り組む。